
外国語教育研究

Foreign Language Institute

センター年報

2013年度



金沢大学外国語教育研究センター

目 次

巻頭言	1
スタッフ	2
組織／共同プロジェクト	3
2013 年度事業報告	
日誌／FD 出張日誌／外部資金獲得研究／スタッフの出版物	4 - 5
講演会	6 - 7
研究会	8 - 9
学習支援事業	10
留学支援事業	11
検定試験・検定模擬試験	12
社会貢献事業	13
その他の活動	14
ホームページのリニューアル	15
センター刊行物／購入語学教材	16

ことばと装い



センター長
澤田 茂 保

言葉は服装と似ていると言われる。会社に行くときの服装は家でくつろぐときの服装と同じではないし、就職面接に着ていく服装は、アウト・ドアーで動き回るときの服装とは違う。言葉も同様で、家族同士や飲み会で話す言葉と目上の人や会議で使う言葉は実は異なっており、人はその場にふさわしい言葉を適宜選択して使い分けている。そして、「胸襟を開いて」とか「袴を脱いで…」といった表現があるように、人の装いは互いの気持ちのあり方にも影響を与え、言葉も同じく、言い方が相手の態度に影響を与える。

言語学では、言葉と装いの類似性を意識してか、モードやスタイルと言ったファッション用語を使うことがある。言語学におけるモードとは伝達の媒体・様態に係わる概念で、重要な対立はwritten/spokenである。一方、スタイルは、文学では文体論の分野で使う用語だが、言語学ではformalityの対比のことを指す。この両者は交差する概念で、spoken/informalな言葉とは、簡単に言えば、家族や友達と話すときのように、くつろいだ人間関係で使われる言葉で、多くは対面かつリアルタイムで進む。そして、その対極にあるのは、written/formalな言葉で、論文や論説などで使用される言語で、伝達には時間差があり、不特定の対象に向けた言葉といえる。カジュアルな装いは、一般に個人の個性が色濃く表れるように、カジュアルな言葉には男女や年齢差など個人レベルの変異がもっとも広く観察される。他方で、フォーマルな礼服が様式化されているように、フォーマルな言葉を使う論文などでは個人的な差異は極小化される。

さて、いつでもどこでも同じ服を着ている人には誰も違和感を持つように、言葉の装いが一つしかない人もやはりヘンである。会社でも茶の間でも同じ背広を着ている人はいない。一般に、ことばの衣装が一つといった状況は、母国語では意図的にしか起こりえないが、外国語ではよく起こる。場面や状況に合った言語の実態を学んでいない限り、それを使うことはできない。英語を「何年も勉強してきた」のに、うんとすんとも「話せない」といった嘆きの原因は実はここにある。モードが異なっており、その場にあった言葉の着こなしができないのである。

高等学校学習指導要領の改訂で、英語の授業は英語で、というスローガンになっている。外国語の授業の中で言語使用の場面をできるだけ増やすことはよいことである。しかし、教室の言語はspokenモードであり、spokenモードには、writtenモードにはない特徴を帯びていると同時に、writtenモードに見られる重要な特徴を欠いている。だから、英語の授業を英語でしたからといって、すべてが学ばれるわけではない。spokenモードは記録性が少ない分、定着のための十分な練習がなければ、逆に何も残らなかった、ということになりかねない。日本の英語教育が実践的コミュニケーション能力の養成にシフトしてきたことは時代の要請である。しかし、その目標が、ある装いがもういらないと切り捨てて、別の装いへと単純にチェンジするだけであれば、かつての非難された偏狭性を繰り返すだけではないかと危惧する。片言では話せる、だが、書いてあると、何が書いてあるのか、辞書があっても分からない、といった形で。すでにその兆候は現れている。大切なのは、特定の装いに転換するのではなく、多様な装いができるようにすることである。もちろん、外国語教育に使える時間は少なく、「言うは易く行うは難し」であるが、少なくとも、言葉を教える側がしっかりと認識しておくべきことであると思う。

スタッフ

英語

John Ertl (ジョン・アートル) 准教授
文化人類学

榎本 剛士 (えのもと たけし) 准教授
言語人類学、社会語用論

大藪 加奈 (おおやぶ かな) 教授
英語文学、英語教育

數見 由紀子 (かずみ ゆきこ) 教授
英語学・言語学

小林 恵美子 (こばやし えみこ) 准教授
コミュニケーション学、日米比較文化論

澤田 茂保 (さわだ しげやす) 教授
英語学・言語学

西嶋 愉一 (にしじま ゆいち) 准教授
自然言語処理

根本 浩行 (ねもと ひろゆき) 准教授
社会言語学

John Bintliff (ジョン・ビントリフ) 教授
英語教育

結城 正美 (ゆうき まさみ) 教授
アメリカ文学、環境文学

ドイツ語

早川 文人 (はやかわ ふみと) 准教授
ドイツ文学

10月着任

Bastian Nonnenberg

(バステイアン・ノネンベルク) 講師
現代日本社会研究、ドイツ語教育

フランス語

三上 純子 (みかみ じゅんこ) 教授
フランス文学

Emmanuel Antier

(エマヌエル・アンティエ) 准教授
言語文化教授法、フランス語教育

ロシア語

平松 潤奈 (ひらまつ じゅんな) 准教授
ロシア文学

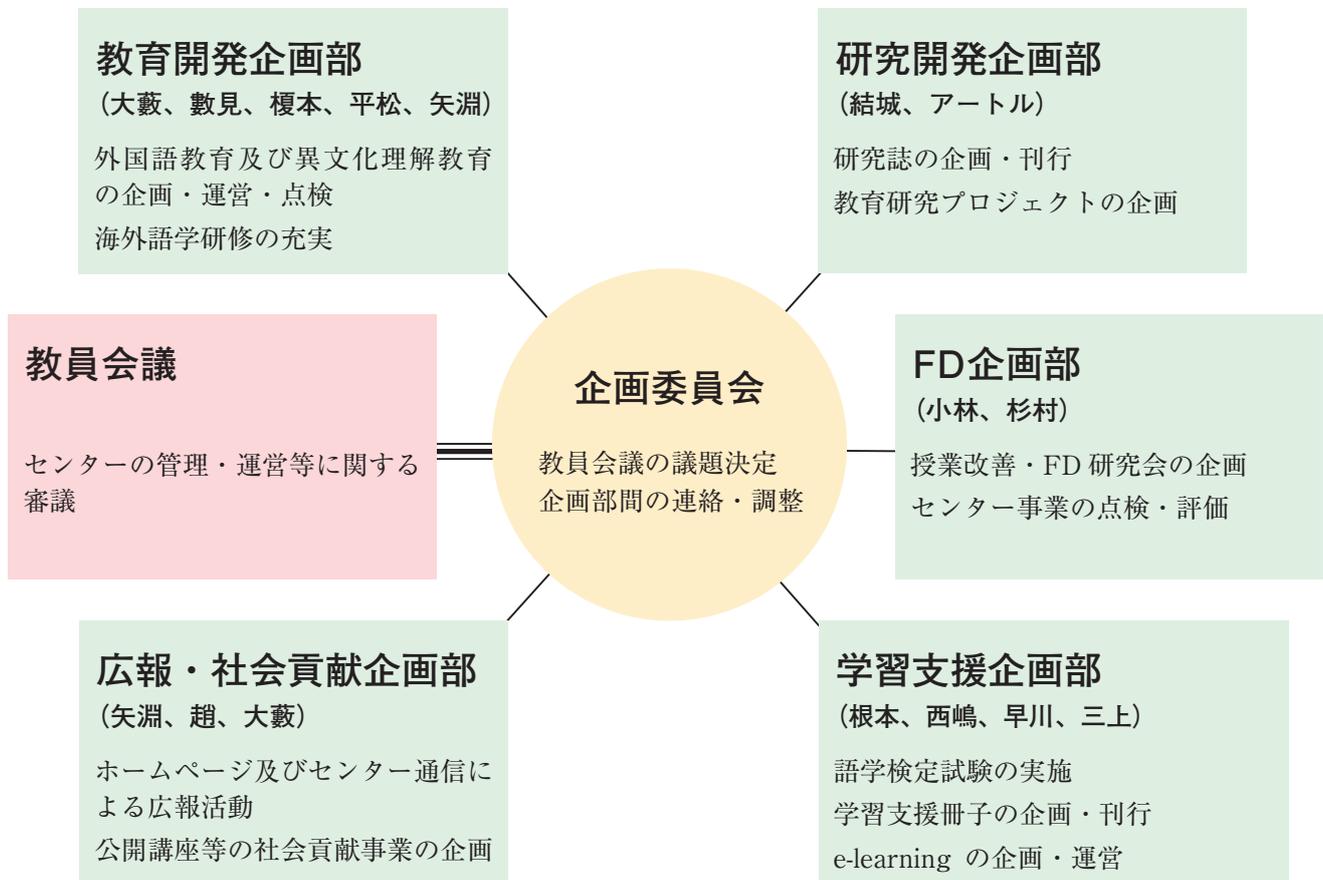
中国語

杉村 安幾子 (すぎむら あきこ) 准教授
中国現代文学

趙 菁 (ちょう せい) 准教授
日本語学、日中言語比較

矢淵 孝良 (やぶち たかよし) 教授
中国古典文学

李 慶 (り けい) 教授
中国古典文学・文献学



共同プロジェクト／高大連携

昨年度の小・中・高・大連携シンポジウム「Can-doリストでつながる英語教育」(本センター主催)では、小・中・高等学校の事例を紹介していただきました。今年度は高大連携の一環として、高等学校の授業を参観し、高等学校の先生方にも共通教育英語科目の授業を見ていただきました。

授業参観は、11月に金沢大学に入学する学生が多い高等学校4校で、英語科目を中心に行いました(訪問順に、金沢二水高等学校、金沢泉丘高等学校、金沢桜丘高等学校、金沢錦丘高等学校)。参観後は英語主任や英語担当の先生方、教頭先生や校長先生ともお話しする機会をいただき、学習指導要領の改訂による授業の変化について、具体的な理解を深めました。

共通教育英語科目の授業参観については、今年度は1校だけでしたが、他の高等学校からも連携協力や授業参観の依頼が来ているので、来年度以降も連携活動を継続し、本学の言語カリキュラム改革や、教育段階を超えてつながる語学教育の発展に結びつけたいと考えています。(大藪加奈記)

2013年度事業報告

目 誌

- 2013年**
- 4月3～5日 初習言語履修ガイダンス
 - 5月15～24日 ランチョンセミナー「外国語学習特集・英語ウィーク」
 - 27～31日 ランチョンセミナー「外国語学習特集・初習言語ウィーク」
 - 28日 第1回研究会「新学習指導要領とこれからの大学英語教育」
 - 6月17～20日 フランス語検定模擬試験
 - 23日 第80回中国語検定試験
 - 7月2日 第2回研究会
 - 5日 「English Communication: Curriculum Design & Teaching Methodology」
講演会
「What's a foreign language?: The practice of “foreign language” as self cultivation」
 - 30日 第3回研究会「語学に特化した『学生による授業評価アンケート』の集計結果」
 - 8月8・9日 オープンキャンパス
 - 29・30日 IELTS対策2日間集中講座
 - 9月1日 TOEFL-iBT
 - 12日 IELTS
 - 10月29日 第4回研究会「教育情報分析から教育をデザインする－初年次教育と学習支援環境」
 - 11月18～21日 フランス語検定模擬試験
 - 23日 2013年度秋季ドイツ語技能検定試験
 - 24日 第81回中国語検定試験
- 2014年**
- 1月20～22日 ランチョンセミナー「英語圏語学研修」
 - 28日 第5回研究会「金沢大学のロシア語・ドイツ語教育の現状と課題」
 - 2月13日 講習会「ALC NetAcademy 2 講習会」
 - 20日 講演会「大学英語カリキュラム改革のかたち」
 - 22・23日 英語指導力開発ワークショップ
 - 3月15日 TOEFL-iBT
 - 23日 第82回中国語検定試験
 - 下旬 学習支援冊子（三種）、研究誌（二種）、『センター通信年報（2013年度）』の発行

FD出張日誌

- 4月13～14日 アンティエ フランス語教育国際研究集会
- 5月18～19日 榎本 日本英語教育史学会全国大会
- 31日～6月1日
三上 日本フランス語教育学会春季大会
- 6月2～7日 根本 カナダ応用言語学会（カナダ）

7月20日	アンティエ	多文化関係学会研究会「グローバル人材育成と言語教育」
8月1日	アンティエ	京都言語文化教育研究会
9月6～8日	榎本	社会言語科学会研究大会
11月8～10日	澤田	日本英語学会大会
3月7日	數見	第23回広島大学外国語教育研究センターシンポジウム
27～29日	アンティエ	関西フランス語教育研究会

外部資金獲得研究

◎資金の種別、年度、研究課題名、研究者名の順で示してあります。

新規

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2013年度 - 2015年度

「Spoken languageの文法論に向けた英語表現におけるタグの研究」澤田茂保

科学研究費補助金 若手研究 (B) 2013年度 - 2015年度

「Diversity in Archeology and Cultural Resource Production in Japan」John Josef Ertl

継続

科学研究費補助金 若手研究 (B) 2012年度 - 2015年度

「ソヴィエト的主体形成における所有と交換：スターリン期の公式文学研究」平松潤奈

科学研究費補助金 若手研究 (B) 2012年度 - 2014年度

「異文化環境で教えるネイティブ語学教師の職業倫理に関する調査研究」Emmanuel Antier

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2011年度 - 2014年度

「日米現代文学にみる食言説と環境観に関する総合的研究」結城正美

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2011年度 - 2014年度

「アーミッシュとイスラム系児童文学にみる宗教的世界観の構築と受容」大藪加奈 (代表者)、ジョン・ベントリフ、三上純子 (以上、本センター)、佐藤文彦 (人文学類)、大藪千穂 (岐阜大学教育学部)

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2011年度 - 2013年度

「オンライン異文化相互学習ネットワークを用いた第二言語学術リテラシー発達過程の研究」根本浩行

スタッフの出版物

結城正美『他火のほうへ——食と文学のインターフェイス』水声社、2012年

結城正美 *Literature and Art after "Fukushima": Four Approaches* (Lisette Gebhardtとの共編著) Berlin: EBVerlag, 2014

西嶋愉一『TOEICテスト基本例文700選』(ヒロ前田監修) アルク、2013年10月

西嶋愉一『TOEIC TEST 鉄板シーン攻略ポキャブラリー』(長田いづみと共著) ジャパンタイムズ、2013年12月



What's a foreign language?: The practice of "foreign language" as self cultivation

Michael Berman (University of California, San Diego) (2013年7月5日)

2013年7月5日（金）午後1時～2時30分、総合教育棟B 1 講義室において、マイケル・バーマン氏による講演がおこなわれ、講義室がほぼ埋まるほどたくさんの学生・教職員の参加がありました。講演は英語でおこなわれましたが、バーマン氏は完璧な日英バイリンガル（中国語など他の言語も堪能です）。大変わかりやすい英語で、随所にジョークを交えながら、グローバル化の時代における外国語学習をめぐる議論を展開されました。

バーマン氏の講演の大きな魅力としてぜひとも挙げておきたいのは、外国語学習というきわめて現実的な問題を、「外国語とは何か」「そもそも“foreign”とはどういう意味なのか」といった哲学的思考にもとづいて考察するスタンスです。英語をはじめとする外国語学習が今後ますます必要とされることは疑い得ません。そして、外国語学習というと、どのようなスキルを身につけるかとか、どのようなトレーニ

ング法が効果的かといったことに関心が向けられがちですが、言語そのものを多角的に考察するバーマン氏の講演は、言語コミュニケーションに関する私たちの意識を大いに刺戟し、理解を深めるきっかけになりました。

バーマン氏は本学と縁の深い方でもあります。2004年秋学期から一年間、ウィリアム&メアリー大学からの派遣留学生として本学で日本語・日本文化を研究されました。その後、人類学の研究に着手し、シカゴ大学修士課程を経て、現在はカリフォルニア大学サンディエゴ校博士後期課程在籍。思想・理論、フィールドワーク、そして実践的な外国語学習に自ら取り組んでおられるバーマン氏は、外国語学習の達人として、また領域横断的な研究の実践者として、多くの魅力と刺戟を参加者に示されました。

(結城正美記)



大学英語カリキュラム改革のかたち

島田 雅 晴 (筑波大学外国語センター准教授)

池田 真 (上智大学文学部准教授) (2014年2月20日)

2014年2月20日、金沢大学自然科学系図書館AVホールにおいて、本センター主催、共通教育機構共催の講演会を開催しました。下に要約した内容のほか、資格試験に対する両大学のスタンスに感銘を受けました。筑波大学では、TOEICなどの資格試験による単位認定・成績評価は、ごく一部の英語科目についてのみ適用され、上智大学では、対策科目は提供されても、外部試験による単位認定は行われていません。大切なのは在学期間中を通じてじっくりと「言語の使い手」を育むことができるカリキュラムである、ということを変更して教えられた、たいへん有意義な講演会でした。

筑波大学の実践：

研究型大学におけるグローバル化と国際化に対応した外国語教育

島田先生には、2011年度から導入された筑波大学の英語カリキュラムについて、理念と実務の両側面から、詳細なお話を頂きました。

筑波大学では、「世界的研究・教育拠点を目指す」



という大学のアイデンティティのもと、「一般学術目的の英語」に重点が置かれ、専門教育への出発点としての英語カリキュラムが実施されています。必須科目として、1年次には、「考える力（思考力・分析力）」「気

づく力（異質性の理解・尊重）」「使える力（英語による課題達成能力）」という育成すべき力に対応する形で、「英語基礎」「異文化と英語」「総合英語」が設けられ、2年次には、専門英語への橋渡しを行う「専門英語基礎演習」が設定されています。さらに、自由科目として「英文法演習」や「発音クリニック」が提供され、幅広い学びの機会も準備されています。

また、英語を「グローバル化への対応力」、初習言語を「地域性・多様性への理解力」として学士力の中に位置づけ、初習言語の教育を重視していることも、筑波大学の外国語教育理念を体現していると言えます。

上智大学の実践：

「内容言語統合型学習（CLIL）」が切り拓く大学英語教育の可能性

池田先生には、上智大学における英語カリキュラムの全容と、その中で重要な位置を占める「内容言語統合型学習（CLIL）」について、理論的かつ具体的にお話を頂きました。

上智大学では、「グローバル英語能力」が「知識の取得」「批判」「他者との協働」「任務遂行」という4側面から定義されています。1年次には、Academic Communication 科目が配置され、アカデミック・スキル一般を扱う学術英語（EAP）科目が春学期の必修となっています。2年次以降の英語は選択科目となっており、Practical English 群（TOEIC、プレゼン等）、Professional English 群（通訳英語、法廷英語等）、Academic English 群（経済学、心理学等）

に分けられています。CLILはちょうどこれらの中間、1年次秋学期の必修科目で導入され、学生は文学、歴史、経済、心理学等の学問分野や国際問題などを英語で学び、専門知識を得ながら英語力を伸ばせるようになっています。



英語カリキュラム全体の中に位置づけると、学術英語（EAP）科目が大学英語への一般的導入、CLILがより高度な英語への橋渡しとなっており、まさにCLILが道を切り拓く役割を果たしていることが理解できました。（榎本剛士記）

研究会

新学習指導要領とこれからの大学英語教育

大藪 加奈、數見 由紀子 (5月28日)

高等学校では今年度の入学者から新学習指導要領が適用され、3年後にはそれに基づく教育を受けた学生が大学に入ってきます。そこでこの研究会では、外国語(英語)科目に関する新学習指導要領の概要を説明するとともに、改訂によって高校における英語の授業がどのように変化しているのかについて、実際に見学した授業の様子を交えながら報告しました。あわせて本学の共通教育英語カリキュラムの変遷、今回の学習指導要領の改訂に対応するための検討課題について、説明と問題提起を行いました。

その後のフリートーキングでは、カリキュラムや

開講形態などの問題、大学英語教育の目的と理念について、活発な意見交換がありました。今回は内容に即して共通教育機構の英語グループとの共催という形にしました。(大藪加奈記)



English Communication: Curriculum Design & Teaching Methodology

BINTLIFF John (Foreign Language Institute) (7月2日)

This was a faculty development presentation dealing with curriculum design and teaching methodology for English I, II, and III courses. While the presentation discussed the specifics of building curricula for each of the three levels, the goals common to all of them were to improve: existing communication



skills, pronunciation, listening abilities, reading and writing skills, comprehension and use of natural English, and most importantly, student confidence. The presentation was attended by both students and general faculty, and ended with a very useful exchange of ideas. (BINTLIFF John)



語学に特化した「学生による授業評価アンケート」の集計結果

小林 恵美子、杉村 安幾子 (7月30日)

外国語教育研究センターFD企画部は、平成24年後期に、本学の教育の質の向上を目指すFD活動の

一環として、他大学の調査票を参考に作成した語学に特化した「学生による授業評価アンケート」を実



施しました。本研究会では、英語科目と初習言語科目それぞれについて、履修動機、授業外学習時間、学習意欲等の設問毎に集計結果

の報告がありました。分析により明らかになった、授業の進め方が効果的であるほど（説明の明快さ、

授業進行速度の適切性、学生参加の多寡）、そして授業外学習時間が長いほど、学生は自身の外国語運用能力の向上を実感しているという結果については、参加者との間で特に有益な意見交換が行われました。

（小林恵美子記）



教育情報分析から教育をデザインする ——初年次教育・学習支援環境

杉 森 公 一（大学教育開発・支援センター）（10月30日）

大学教育開発・支援センター杉森公一准教授による本研究会においては、前任校である金城大学での初年次教育・リメディアル教育の取り組みとその成



果に関して、基づいた理論や統計分析とともに詳細な報告がなされた。報告後は質疑応答と簡単なワークショップが行われ、参加した教員達は教育方法や成績評価の方法などに関して活発な情報交換を行なった。このような情報交換は教員間で意外になされていないため、貴重な時間を得たと言える。初年次導入教育の充実化が叫ばれている中、学生の能動的な学習とその定着を目指す試み及び確実な成果が、今後一層求められていくであろうことを痛感・確認させられる研究会となった。（杉村安幾子記）

金沢大学のドイツ語・ロシア語教育の現状と課題

早 川 文 人、平 松 潤 奈（1月28日）

ドイツ語教育に関する報告では、全国の大学及び本学における主要第二外国語の学習状況が数値で示され、その分析を踏まえて、本学で人気のドイツ語の学習環境をさらに整備する方策が提案されました。現在行われている派遣留学や語学研修の一層の充実（在独日本企業での研修を盛り込むなど）、二年目以降の継続履修者数の向上、留学経験者向け



クラスの開講などです。

ロシア語教育に関する報告では、全国的に履修者数が低迷する現状説明ののち、他大学でのCEFRに基づく教育向上実践例を参考に、本学でも、ロシア事情紹介と語学教育の融合などによって、学生にとってよりアクチュアリティのある語学教育を展開する必要性のあることが語られました。（平松潤奈記）



学習支援事業

IELTS 集中講座

ブリティッシュ・カウンシルからIELTSを専門とする英語ネイティブ講師を招き、8月29、30日にIELTS集中講座を実施しました。ブリティッシュ・カウンシル独自の教材とIELTSの模試問題をテキストとして用いて行われた本講座には、主に派遣留学を希望する学生40名が参加しました。1日目はIELTS試験の概要や試験の取り組み方、各スキルのアプローチの仕方・対策等を学習し、2日目は学生の弱点克服に主眼を置き、講師からのフィードバックを受けながら午前はスピーキング、午後はライティングの実践練習をしました。試験で最大限の成果を獲得するための効果的な方略を学ぶだけでなく、論理的に話す・書くにはどうすればいいのかを教わり、講座中に得た役に立つ表現、構成法などの知識をトピック別の練習問題で実際に活用し定着を図りました。また、それぞれのレッスンは講義形式ではなく、受講生の実践練習が中心であったため、お互いに分析・議論しながら解決策を見つけていくことで、試験に向けての自律学習能力を高める良い機会となりました。派遣留学支援の一環としてのテスト対策にとどまらず、論理的英語運用能力を促進する上で確かな土台づくりができたことも大きな成果と言えるでしょう。（根本浩行記）

ALC NetAcademy2 講習会

自然科学本館総合メディア演習室において、本センター主催でALC NetAcademy2（以下、NA2）の利用促進のための講習会を開催しました。NA2は、アカンサスポータル経由で利用可能なTOEIC等の外部試験対策を含む、英語の自学自習に効果的な



e-Learning教材で、本学の国際戦略のアクションプランにも掲げられている学生、教職員の英語力向上に有効なツールです。

今回は、学習者向け講習会（29名参加）と管理者向け講習会（13名参加）に分け、アルク教育社の講師による、企業でのグローバル研修やNA2の効果的学習方法の紹介、学習履歴から読み取れる情報と活用方法の説明等が行われました。（小林恵美子記）



初習言語履修ガイダンス

初習言語を選択する上で参考となるように、本センターは新入生向けに『初習言語ガイドブック』を刊行しています。さらに昨年度からは共通教育科目履修説明会（今年度は4月3～5日）に合わせ、各言語の特徴、授業の様子、語学研修などについて説明する場を設けました。特に初習言語を必修としない学生たちに諸言語の魅力を伝え、興味を持ってもらうことに力点を置いています。各言語はそのためにさまざまな工夫を凝らしていますが、やはり「非必修」の壁は厚く、理工学域・医薬保健学域・学校教育学類の学生たちが初習言語を履修する数は目立って増えていません。それでもガイダンスに来た学生の顔を授業で見かけると、思わずにっこりしてしまいます。そんな数少ない出会いを励みにして、来年度も続けることにしています。（矢淵孝良記）



留学支援事業

留学準備授業

今年度は英語Ⅱと英語Ⅲで留学準備クラスを14科目開講しました。その内訳は、TOEFL 準備クラス（8コマ）、異文化適応対策クラス（2コマ）、そして外国人留学生とのジョイントクラス（4コマ）です。ジョイントクラスでは、留学経験者や留学予定（希望）の協定校からの交換留学生と授業をとおして親しくなり、留学情報を得たり、留学先で交流を続ける学生もいました。

語学研修では、今年度から独立科目となった英語Ⅱ「語学研修事前学習」で、海外における危機管理に関するシミュレーションや、前年度の参加者による体験談・アドバイスもありました。（大藪加奈記）

エジンバラ大学研修

英国スコットランド、エジンバラ大学研修（夏期・春期）には、48名が参加しました。今年度から、語学だけでなく、英語と教科の両方を学ぶ内容で、9月は社会科学分野、2月は医療分野、3月は人文または科学分野についてのプロジェクトを行う研修となりました。

学生たちはホストファミリーに滞在し、各分野に関する学校外活動や、日本文化に興味のある学生・市民との交流行事にも参加しました。また、休日はそれぞれの興味に沿い、世界遺産都市エジンバラが提供する文化やスコットランドの自然などに触れて、3週間を過ごしました。（大藪加奈記）

ワシントン大学語学研修

シアトルでの語学研修、今年度は8月26日－9月13日の研修に13名の学生が参加しました（内訳：人文、経済、自然システム、環境デザイン、薬／創薬から各2名、国際、機械工学、物質化学から各1名。女子11名、男子2名）。

この研修には年々、日本の大学からの参加者が増えています。初日のプレイズメントテストの結果にもとづき習熟度別にクラス編制されますが、中級以下はクラスメートが全員日本人という場合もあります。他国の受講生との交流が期待できる上級クラスに入れたのはほんの一握り。プレイズメントテスト対策のさらなる強化が必要です。（結城正美記）

ハワイ大学語学研修

ホノルルのハワイ大学マノア校で8月5日－8月24日に開かれた研修に、本学から8名が参加しました（内訳：国際、物質化学から各2名、経済、学校教育、薬／創薬、保健から各1名。女子6名、男子2名）。

研修は、午前中はリスニング&スピーキング力の向上を目指したトレーニング、午後に文化体験やハワイ大学学生との交流という内容です。週に二度のハワイ大学学生との交流の時間が好評でした。アメリカ合衆国のなかでもとりわけ豊かな異文化環境を誇るホノルルで、学生たちは英語による異文化コミュニケーションの感触を確実につかんだようです。（結城正美記）

ユーコンカレッジ語学研修

北極圏に近いカナダ・ユーコン準州ホワイトホースにあるユーコンカレッジで昨年度開始した本学学生用の研修、今年度は定員を上回る20名以上の希望者があり、抽選で15名を選びました（内訳：経済6名、学校教育3名、国際2名、人文、数物科、環境デザインから各1名。女子11名、男子4名）。教室での英語の授業のほか、先住民文化を学ぶワークショップやアウトドア活動も充実しており、学生は先住民との交流、カヌー、オーロラツアーなどを満喫したようです。また、地域との交流を求めて金大生が日本文化体験ワークショップを開き、地域のメディアに大きく取り上げられました。（結城正美記）

モナシュ大学語学研修

世界一住みやすい都市オーストラリア、メルボルンで学ぶことのできるこの語学研修には、今年度は前期4名、後期2名が参加しました。クラス分け試験を経て個々のレベルにあった学術英語養成集中コースを5週間受講し、いろいろな国から来ている学生たちと肩を並べて切磋琢磨しながら、実際に英語圏の大学の授業で必要とされる学術能力習得の土台づくりをしました。また、海外留学用の英語試験IELTSを研修の最後に受験することで自らの学習到達度を確認することができ、将来の派遣留学を視野に入れた自律学習への意識を高める良いきっかけとなりました。（根本浩行記）

検定試験・検定模擬試験

IELTS

金沢大学では、2012年度よりIELTSの学内受験を導入。2012年度は年2回（9月と2月）、本年度は年4回（7月、9月、1月、3月）実施した。受験者数は7月が18名、9月が15名、1月が10名、3月が12名で、計55名。この学内受験制度の導入により、学生たちは確かな目標設定のもと留学に向けた学習をより計画的に進めることができるようになり、派遣留学先で要求される入学基準スコアの6.0もしくは6.5以上を取る学生の数も増えてきている。また、学生たちが自主的に行っている「IELTS勉強会」の活性化に繋がっていることから、学内受験が着実な成果をもたらしていることがわかる。来年度は年5回の実施を検討しており、派遣留学支援の体系化に今後とも貢献していきたい。（根本浩行記）

ドイツ語技能検定試験

2013年度秋期ドイツ語技能検定試験（独検）は、11月23日に本学総合教育棟で行われた。本学学生の級別受験者数（延べ数）と合格者数（括弧内）は、以下の通りである。

	春期	秋期	合計
1 級		0	0
準1 級		4 (1)	4 (1)
2 級	4 (3)	11 (8)	15 (11)
3 級	11 (0)	15 (9)	26 (9)
4 級	3 (1)	7 (7)	10 (8)
5 級	0	0	0
合計	18 (4)	37 (25)	55 (29)

秋期の準1級の合格者は1名となっているが、1次試験の筆記試験の合格者は2名いた。春期、秋期ともに2級以上の受験者と合格率が高いことは、本学が実施しているサマーコースや交換留学の成果が出てきていると言えよう。ただし前年度に比べ、受験者数が減少しているだけでなく、春期の3級の合格者が欠席者も含め、ゼロという結果に終わったことについては何らかの対策を講じる必要があると思われる。今後の課題としたい。（早川文人記）

中国語検定試験

2013年度中国語検定試験は日本中国語検定協会の実施に合わせて例年通り三回行なった。

受験者数は昨年度比10名増という躍進であったが、逆に3級合格者は過去最多であった昨年の16名から11減の5名に止まり、中国語中級担当教員の間ではこれを問題視する向きが出始めている。検定試験の結果が全てではないが、こうした試験の合格が弾みとなって、学習者はより一層能動的な学習に向かい、それが更なる意欲と進歩につながるため、軽視できないというのもまた事実である。学生の自律的学習を応援すべく、教員としても学習に対するきめ細かな助言と指導を心がけていきたい。

各回の級別受験者数は以下の通り。括弧内は合格者数である。（杉村安幾子記）

	第79回 (3/24)	第80回 (6/23)	第81回 (11/24)	合計
準1 級	0	0	3 (1)	3 (1)
2 級	4 (2)	5 (0)	5 (2)	14 (4)
3 級	5 (1)	1 (0)	10 (4)	16 (5)
4 級	13 (9)	3 (2)	10 (6)	26 (17)
準4 級	1 (0)	0	3 (2)	4 (2)
合計	23 (12)	9 (2)	31 (15)	63 (29)

フランス語検定模擬試験

2013年度実用フランス語技能検定試験の日程に合わせ、春は6月17、19、20日、秋は11月18、20、21日に、3・4・5級の模擬試験を実施した。参加者は3級6名、4級8名、5級3名であった。

仏検受験者は過去最多の延べ79名となった（下記の表参照、括弧内は合格者数）。合格者数の方は昨年度に2名及ばなかったが、留学を終えた学生が準1級に合格したのは喜ばしい結果と言える。5級・4級の合格者は増加傾向にあるので、これらの学生が2年次以降も仏検を活用して基礎力を強化し、語学研修や派遣留学等を目指せるよう、今後も学習支援を続けてゆきたい。（三上純子記）

	春季 (6/23)	秋季 (11/24)	合計
準1 級		4 (2)	4 (2)
2 級	4 (3)	4 (1)	8 (4)
準2 級	3 (2)	4 (3)	7 (5)
3 級	6 (6)	8 (4)	14 (10)
4 級	5 (4)	35 (31)	40 (35)
5 級	1 (1)	5 (5)	6 (6)
合計	19 (16)	60 (46)	79 (62)

社会貢献事業

英語指導力開発ワークショップ

平成26年2月22日・23日に、第7回「英語指導力開発ワークショップ」を開催しました。今回は「The Art of Presentation（英語でプレゼン!）」をテーマに、近年、小・中・高で取り入れられている英語による発表とその教え方について実践的に学ぶ機会としました。金沢市教育委員会にも広報にご協力いただき、2日間で、小・中・高・大の教員、教員志望の学生を含むのべ43名が参加されました。講師・母語話者インストラクターを本センターの結城、Bintliff各教員、国際学類のFox教員、本学非常勤講師5名が務め、本センターの大藪教員と数見が準備・運営を担当しました。

1日目は、午前にパブリック・スピーキングの基礎とプレゼンテーションの様々なスタイルについて学び、午後は参加者一人ひとりが物を見せながらのプレゼン、メモを見ながらのプレゼンを実践しました。2日目は、午前にプレゼンテーションの様々な方法を学んだ後、4～5名の聴衆に対するポスタープレゼンに全員が取り組み、午後はグループごとにPowerPointを用いたプレゼンを準備・実践しました。今回もセッションの前後に母語話者インストラクターとの自由会話の時間を設け、英語力向上・相互交流の場としました。

参加された方々から、生徒・学生の立場で実際に活動を体験できることが有益であるとの声を多数いただきました。運営する側も、いつもながら参加者の皆様から学ぶところの多い2日間でした。

（数見由紀子記）



公開講座（1）

今年度は「日本の国語教科書のなかの外国文学」のテーマで6月から7月にかけて開催しました。

- 第1回 ヘッセ『少年の日の思い出』（ドイツ）
佐藤 文彦（人文学類）
- 第2回 ミハイル・ショーロホフ『子馬』（ロシア）
平松 潤奈
- 第3回 魯迅『故郷』をめぐるミステリー（中国）
杉村安幾子
- 第4回 アルフォンス・ドーデ『最後の授業』（フランス）
三上 純子
- 第5回 「英語圏の児童文学と国語教科書」
大藪 加奈

日本の国語教科書に掲載されてきた外国の小説や物語に焦点をあて、作者および作品が書かれた当時の各国の社会・文化について考えると共に、作品が伝えている、または伝えようとしているメッセージ、原文と翻訳との違い、そしてなぜその作品が教科書に取り上げられたのか、といった点について講義しました。今回は事前に資料を配付し、実際に各作品を参加者に読んできて頂くという形式にしたことが特に好評でした。

（大藪加奈記）

公開講座（2）

「文学にみる食と健康の世界」と題し、2名の講師が生命の根幹にかかわる食や健康の問題を、文学や文化の切り口から講義しました。受講者は、江戸から現代に至る文学や文芸の世界をとおして食や健康をめぐる価値観について理解を深めました。

（趙菁記）



- 第1回 言葉がつくる食の〈リスク〉と〈安全〉
結城 正美

- 第2回 現代文学における食物汚染—水俣、チェルノブイリ、福島 結城 正美
 第3回 江戸文学に学ぶ健康観 (一)—茶と養生 趙 菁

- 第4回 江戸文学に学ぶ健康観 (二)—能と養生 趙 菁
 第5回 食のリアリティー—数字の言葉、身体という言葉 結城 正美

その他の活動

ランチョンセミナー「外国語学習特集」

大学教育開発・支援センター主催の2013年度「角間ランチョンセミナー」において、本センターのスタッフを中心に「外国語学習特集」の12回のミニ講義を行った。角間ランチョンセミナーは今年度で終了するが、これらのミニ講義は参加者には好評であるため、今後も本センターの企画として継続できればと考えている。(三上純子記)

- 第23回 5月15日(水)
 モナシュ大学語学研修体験談 根本 浩行
 第24回 5月16日(木)
 ワシントン大学、ハワイ大学、ユーコンカレッジ
 研修 参加者からのアドバイス 結城 正美
 第25回 5月17日(金)
 エジンバラ大学研修 体験者の声を聞こう！
 大藪 加奈
 第26回 5月20日(月)
 パソコンで英語学習！ALC NetAcademy2を使っ
 てみよう 西嶋 愉一
 第27回 5月21日(火)
 今日からはじめるTOEIC対策 西嶋 愉一
 第28回 5月22日(水)
 自分の英語力を「デザイン」しよう！：英語Ⅱ/
 英語Ⅲのススメ 榎本 剛士
 第29回 5月23日(木)
 大学生としての継続的英語学習法 小林恵美子
 第30回 5月24日(金)
 IELTS対策とIELTS勉強会 根本 浩行
 第31回 5月27日(月)
 フランス語の魅力と学び方 三上 純子
 第32回 5月28日(火)
 ロシア語の魅力と学び方 平松 潤奈
 第33回 5月29日(水)
 朝鮮語の魅力と学び方 宋 有宰(非常勤講師)

- 第34回 5月30日(木)
 ドイツ語の魅力と学び方
 バスティアン・ノネンベルク、佐藤 文彦(人文学類)
 第35回 5月31日(金)
 中国語の魅力と学び方 矢淵 孝良

ランチョンセミナー「英語圏語学研修」

- 英語圏の語学研修を案内することが目的のラン
 チョンセミナーで、担当教員による各研修の概要説
 明のほか、それぞれの研修の経験者がプレゼンテー
 ションを行ったり、体験談を述べ、研修に関心を持
 つ学生からの質問に答えました。(大藪加奈記)
 1月20日(月) 結城 正美
 ワシントン大学(アメリカ)とユーコンカレッジ
 (カナダ)の語学研修、体験談とアドバイス
 1月21日(火) 根本 浩行
 モナシュ大学語学研修体験談/IELTSで勝ち取る
 派遣留学
 1月22日(水) 大藪 加奈
 エジンバラ大学研修の案内

海外留学フェア2013

6月28日に「海外留学フェア2013」(国際機構主催)が開催されました。本センターの教員は、留学・語学相談とTOEFLトライアルコーナーを担当しました。フェア全体の来場者は82名でした。(數見由紀子記)



オープンキャンパス

本センターは8月8日、9日のオープンキャンパスに際し、国際機構、留学生センターと協力し、金沢大学の国際化の現状、派遣留学、海外語学研修、外国語の授業などに関する説明を担当しました。会場が総合教育棟であったためか、国際学類に関心のある高校生が大半でしたがけれども、学類のイベントの間、仲間同士、あるいは親子連れで訪れ、派遣留学

体験者の話などに耳を傾けていました。また、説明会をサポートしてくれた外国人留学生と英語で会話する高校生も多く見受けられました。（矢淵孝良記）



ホームページのリニューアル

本センターは今年度、ホームページをリニューアルしました。サーバの不調に迫られたのが直接の理由ですが、同時に今の学生のインターネット利用の実態に即し、少し手直しする必要もありました。

本学はノートPC必携ということで、全学生がパソコンを持っています。しかし、彼らは常時パソコ

ンを携帯しているわけではありません。大半はスマートフォンなど、タブレット型の機器を利用してネットにアクセスしています。この傾向は今後さらに拡大すると見込まれます。

そこでまずトップページをシンプルな姿に改めました【図1】。さらに学生たちの利用頻度が高いと思われる記事について、右側にいくつかバナーを設けてアクセスしやすくしました。例えば「共通教育特設プログラム」のバナーにタッチすると【図2】の画面が現れ、さらに個別の情報にアクセスしていくことが可能です。

このように装いを改め、新たな内容を加えたりリニューアルですが、やはりコンテンツ不足は否めません。今後さらに内容の充実に努めていきたいと思っています。こんなふうに変えたほうがよいとか、こんな情報を載せてほしいとか、ご意見、ご要望がありましたら、ぜひお聞かせください。

（矢淵孝良記）



図1

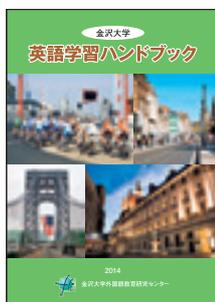


図2

センター刊行物／購入語学教材

学習支援冊子

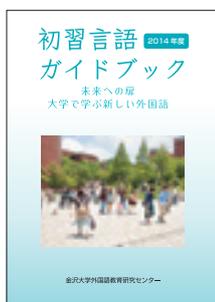
『英語学習ハンドブック』(2014年度版)



大学での効果的な英語学習に役立つ情報や履修のアドバイスなどを収録

◎新入生に配付

『初習言語ガイドブック』(2014年度版)



本学で開講している初習言語の紹介や履修上の注意などを収録

◎新入生に配付

『英語力をのびたい皆さんのための英語Ⅱ／英語Ⅲ授業案内』(2014年度版)



英語Ⅱ・英語Ⅲを目的や関心ごとに分類した授業案内

◎学務係で希望者に配付

紀要

『言語文化論叢』第18号

外国語教育法、外国語学・外国語文学、異文化コミュニケーションに関する論文等を掲載

『外国語教育フォーラム』第8号

外国語教育に関する論文、授業実践報告等を掲載

貸出し用教材 [2013年度購入分]

英語

- ・ ENGLISH JOURNAL (CD付)
- ・ CNN ENGLISH EXPRESS (CD付)
- ・ 英検 全問題集 2013年版 (CD付)
- ・ Hackers TOEFL Actual Test Listening
- ・ TOEFL MAP Reading Advanced 他 107点

ドイツ語

- ・ 独検過去問題集 2013年度版
- ・ ドイツ語を読む
- ・ 日常ドイツ語会話ネイティブ表現
- ・ Geschichte der deutschen Literatur. 他 6点

フランス語

- ・ 実用フランス語技能検定試験 2013年度版 (CD付)
- ・ Le Nouvel Entraînez-vous DILF A1 他 8点

中国語

- ・ 中国語ジャーナル (CD付)
- ・ 聴く中国語 (CD付)
- ・ 中検問題集 2013年度版 (CD付)
- ・ ネイティブがよく使う中国語会話表現ランキング 他 19点

韓国語

- ・ 韓国語ジャーナル (CD付)
- ・ ハングル能力検定試験 過去問題集 第8巻
- ・ 日記を書いて身につける韓国語 他 2点

スペイン語

- ・ スペイン語で手帳をつけてみる
- ・ やさしく読めるスペイン語の昔話 他 1点



外国語教育研究センター年報 2013年度

2014年3月発行

金沢大学外国語教育研究センター 広報・社会貢献企画部編

920-1192 金沢市角間町

電話：076-264-5760 fax：264-5993

<http://fliwww.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

flijimu@adm.kanazawa-u.ac.jp

